

路地のごみ収集を支援

紀宝町で清掃事業協議会 通常の2年分、悪臭も

台風12号による豪雨で被害が出た紀宝町で18日、廃棄物処理業者でつくる「みえ清掃事業協議会」（津市）のメンバーらが、路地

などに残ったごみの収集作業を支援した。同町では浸水した家屋から出た粗大ごみなどの回収が遅れ、悪臭が発生する事態も。衛生面の悪化も懸念され、住民からは「泥や家具が放置されたままの家屋も多く残っている。なかなか対応が進まない」との嘆きも出ている。



紀宝町の町営運動場で山積みされた粗大ごみなど＝18日午前

泥水を吸って膨れ上がった畳や壊れたドア、家電製品…。県によると、豪雨後に出た町内のごみは15日段階で約9300トに上った。通常の2年分を超える量という。町は「浸水被害に伴う廃棄物の発生量は（最終的に）約2万3千トと見込まれる」と試算。一方で17日までに町外に搬出

するなどしたのは約千トにとどまり、今も町営運動場や付近の港に山積み状態になっている。18日は、町から協力要請

を受けた同協議会の有志約10人が、町職員らと町内の路地などでごみを収集。家電類や流木、燃料ごみなどに分別した上で、町営運動場へ運搬した。今後、種別別に県の指導を受け町が処分方法を決めるが、一部は県内の民間業者に処分を依頼するという。

作業に参加した同協議会の片野宣之代表（37）は「町内の道も狭く時間はかかるが、住民の方の力になれるように頑張りたい」。浸水した自宅周辺の土砂を自家用車で運び出してきた同町の保富清春さん（63）は「泥は放っておくところから袋に詰めて何度も運んだ。人手が足りない中、支援は助かる」と話した。